



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 HYUGA PRIMARY CARE株式会社 上場取引所 東
コード番号 7133 URL https://www.hyuga-primary.care
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒木 哲史
問合せ先責任者 (役職名) 取締役最高財務責任者 (氏名) 大西 智明 TEL 092-558-2120
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	2,240	—	145	—	141	—	94	—
2024年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 94百万円 (—%) 2024年3月期第1四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	13.36	12.89
2024年3月期第1四半期	—	—

(注) 当社は、2024年3月期第1四半期において連結財務諸表を作成していないため、2025年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率並びに2024年3月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	6,691	1,737	26.0
2024年3月期	6,354	1,643	25.9

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 1,737百万円 2024年3月期 1,643百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	4,532	—	397	—	381	—	263	—	37.07
通期	9,455	14.1	929	30.9	889	24.1	618	40.2	86.98

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注) 2. 当社は、2024年3月期から連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期第2四半期（累計）の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	7,246,600株	2024年3月期	7,246,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	147,100株	2024年3月期	147,100株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	7,099,395株	2024年3月期1Q	7,153,382株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 4 ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社グループの属する医療・介護業界においては、2024年6月（薬価等の改定は2024年4月）に調剤報酬改定、介護報酬改定が行われ、団塊の世代が後期高齢者になる超高齢化社会2025年問題に対応した本格的な在宅医療介護時代が始まっていると言えます。

当社グループは、企業理念である「患者さん（利用者さん）が24時間365日、自宅で「安心」して療養できる社会インフラを創る」を実現するため、在宅訪問薬局事業、きらりプライム事業及びプライマリケアホーム事業の主力3事業を中心に着実な拡大を図り、「プライマリケアのプラットフォーム企業」という目標に向けて尽力しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,240百万円となり、利益面では営業利益が145百万円、経常利益が141百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が94百万円となりました。

なお、当社は2024年3月期末から連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っていません。

(参考)

2025年3月期第1四半期（連結）及び2024年3月期第1四半期（非連結）におけるセグメントごとの売上高及びセグメント利益において、単純比較資料を参考資料として掲示いたします。

	在宅訪問薬局事業	きらりプライム事業	プライマリケアホーム事業	その他事業	調整額	合計
売上高						
2025年3月期 第1四半期（連結）（百万円）	1,645	231	364	0	—	2,240
2024年3月期 第1四半期（非連結）（百万円）	1,505	177	106	6	—	1,795
対前年同四半期 増減率（%）	9.3	30.7	243.3	△97.0	—	24.8
セグメント利益						
2025年3月期 第1四半期（連結）（百万円）	94	132	67	△2	△146	145
2024年3月期 第1四半期（非連結）（百万円）	124	90	△38	△3	△116	55
対前年同四半期 増減率（%）	△24.1	45.9	—	—	—	160.5

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(在宅訪問薬局事業)

在宅訪問薬局事業では、前連結会計年度から社員負荷増大のため離職率が増加しており、これに対応するため人材採用及び薬剤師負荷軽減のための自動監査システムを導入するなど、労働環境の改善を進めてまいりました。また、生成AIを利用したRPA(※)を報告書作成業務に導入予定であり、並行して株式会社ソラミチシステムが開発販売するクラウド型電子薬歴システム「CARADA 電子薬歴 Solamichi」と当社グループの在宅訪問支援情報システム「ファミケア」を相互連携させることを目的とした業務提携を開始するなど、さらなる業務負荷軽減と運営効率の向上を目指しております。

当第1四半期連結累計期間末時点における在宅患者数は9,422人（前年同四半期末比5.5%増）と好調に推移しており、店舗の新規出店においても、福岡市に2店舗、千葉市に1店舗、合計3店舗を開局し、合計47店舗となりました。売上高も順調に増加しているものの、引き続き在宅患者の増加に対応するため、福岡市内に3店舗、また既存エリア外である熊本県及び鹿児島県に新規開局を計画しており、当第1四半期連結累計期間内において出店準備費用及び人材採用費用が先行して発生しております。

なお、当第1四半期連結累計期間では、2024年4月から薬価がマイナス改定されたことに加え、新設された在宅薬学総合体制加算などの在宅患者に対する調剤報酬増加は6月であったことから、一般的な外来型調剤薬局と同様にマイナスの影響がありましたが、仕入原価（薬の仕入費用）を控除した粗利は前年同期比で54百万円増加しております。

以上の結果、売上高は1,645百万円、セグメント利益は94百万円となりました。

(※) RPA：ロボティクス・プロセス・オートメーションの略で、人がパソコン上で日常的に行う業務を同じかたちで自動化するもの

(きらりプライム事業)

きらりプライム事業は、中小規模の薬局と提携し、効率的な在宅薬局の運営ノウハウの提供、人材研修、24時間対応のためのオンコール体制の支援、在宅薬局特化型の在宅訪問支援情報システム「ファミケア」の貸与及び医薬品購入支援などのサービスを行っております。

当第1四半期連結会計期間では、調剤報酬改定により、在宅患者へのサービスにおける加算獲得（連携強化加算及び在宅薬学総合体制加算など）に一定の研修受講が義務付けられたため、当社グループの研修サービスが広く認知され、需要が増加いたしました。このことから、営業活動が順調に進捗しました。

また、コンサルティングサービス、特に在宅患者獲得支援に対する需要も増加したことからARPU(※)に対して好影響を与え、前年同四半期の9.7万円に対して当第1四半期連結会計期間は11.9万円(22.3%増)となりました。

なお、当四半期連結会計期間末時点で加盟法人数は749社(前年同四半期末は647社)、加盟店舗数は2,037店舗(前年同四半期末は1,821店舗)となりました。

以上の結果、売上高は231百万円、セグメント利益は132百万円となりました。

(※) ARPU：1店舗当たりの平均売上

(プライマリケアホーム事業)

プライマリケアホーム事業では、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを行う住宅型有料老人ホームを運営しております。当事業の特徴は、在宅訪問薬局事業で培った在宅医療ノウハウとネットワークを生かし、要介護度が高く、医療依存度が高い在宅患者に対応できる施設であることです。さらに、介護人材不足の解消及び運営効率を上げ収益性を高めるため、施設を大型化し自社開発したICT及びDXを取り入れております。

1棟目の「プライマリケアホームひゅうが春日ちくし台(定員102名)」は、入居率98%を継続しております。2棟目の「プライマリケアホームひゅうが博多麦野(定員162名)」は入居率90%を超え、入居申し込みを含めると、ほぼ満床となっております。

今後、2024年12月に「プライマリケアホームひゅうが熊本はません」(仮称)の開設を予定しており、当社グループ初の福岡県外の開設になることから、関係各所への営業活動を前倒しで行っております。

以上の結果、売上高は364百万円、セグメント利益は67百万円となりました。

(その他事業)

当社グループのその他事業は、ICT事業を含めております。

ICT事業では、入居者の健康状態を自動的に把握するウェアラブルウォッチ以外にも、入居者の離床、座位、臥床を検知するベッドセンサーを開発し、当社グループの介護施設での実装実験を進めながら本格的な販売に向け準備しております。このベッドセンサーは、介護保険適用となるTAISコード及び貸与マークを取得しており、「福祉用具貸与商品」として取り扱うことが可能となり、当社グループの施設で貸与を開始し、プライマリケアホーム事業の福祉用具貸与サービスとして収益を上げております。

また、オムツ内の排泄の有無、量を検知・計測する「排泄見守りセンサー」を追加開発し、高齢者のQOLの向上ならびに排泄ケアにおける介護現場の労務負担軽減を図る取り組みを進めております。

以上の結果、売上高は0百万円、セグメント損失は2百万円となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産2,684百万円となり、前連結会計年度末に比べ239百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が160百万円、商品が57百万円増加したことによるものであります。

固定資産は4,007百万円となり、前連結会計年度末に比べ97百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が37百万円、投資その他の資産が50百万円増加したことによるものであります。

その結果、総資産は6,691百万円となり、前連結会計年度末に比べ336百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間における流動負債は2,293百万円となり、前連結会計年度末に比べ273百万円増加いたしました。これは主に買掛金が164百万円、短期借入金が200百万円増加したものの、未払法人税等が126百万円減少したことによるものであります。

固定負債は2,660百万円となり、前連結会計年度末に比べ31百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が55百万円減少したことによるものであります。

その結果、負債は4,953百万円となり、前連結会計年度末に比べ241百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間における純資産は1,737百万円となり、前連結会計年度末に比べ94百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が94百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年5月14日の「2024年3月期 決算短信」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。なお、当該連結業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	688,010	848,021
売掛金	1,498,284	1,517,512
商品	181,322	238,986
その他	77,304	79,742
流動資産合計	2,444,922	2,684,262
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,613,021	2,607,791
その他(純額)	384,378	427,595
有形固定資産合計	2,997,400	3,035,387
無形固定資産	364,285	373,203
投資その他の資産	548,387	598,964
固定資産合計	3,910,073	4,007,554
資産合計	6,354,996	6,691,817
負債の部		
流動負債		
買掛金	751,779	916,400
短期借入金	200,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	256,935	252,765
未払法人税等	180,707	53,709
賞与引当金	100,672	135,111
その他	529,499	535,504
流動負債合計	2,019,593	2,293,491
固定負債		
長期借入金	2,173,064	2,117,807
資産除去債務	85,674	87,409
その他	433,539	455,112
固定負債合計	2,692,277	2,660,329
負債合計	4,711,871	4,953,821
純資産の部		
株主資本		
資本金	195,382	195,394
資本剰余金	345,392	345,404
利益剰余金	1,402,327	1,497,175
自己株式	△299,978	△299,978
株主資本合計	1,643,125	1,737,996
純資産合計	1,643,125	1,737,996
負債純資産合計	6,354,996	6,691,817

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	2,240,970
売上原価	1,762,587
売上総利益	478,382
販売費及び一般管理費	333,212
営業利益	145,170
営業外収益	
受取利息	844
補助金収入	2,394
その他	77
営業外収益合計	3,316
営業外費用	
支払利息	7,040
その他	22
営業外費用合計	7,062
経常利益	141,424
税金等調整前四半期純利益	141,424
法人税等	46,576
四半期純利益	94,847
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	94,847

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	94,847
その他の包括利益	
その他の包括利益合計	—
四半期包括利益	94,847
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	94,847
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前四半期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 事業 (注3)	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	在宅訪問 薬局事業	きらり プライム 事業	プライマリ ケアホーム 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,645,068	231,597	364,093	2,240,760	210	2,240,970	—	2,240,970
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,645,068	231,597	364,093	2,240,760	210	2,240,970	—	2,240,970
セグメント利益 又は損失(△)	94,290	132,036	67,778	294,105	△2,074	292,030	△146,860	145,170

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ICT事業であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

当第1四半期連結累計期間
(自 2024年4月1日
至 2024年6月30日)

減価償却費	62,928千円
のれんの償却額	2,150